



営農情報



「あまおう」8月の管理

第3号 平成24年8月8日発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及センター

九州各地で深刻な被害をもたらした先般の集中豪雨により、本地区におきましてもイチゴ苗の冠水、浸水被害が発生いたしました。
被害を受けられた生産者の方々へ心よりのお見舞いを申し上げます。

今年は雨が非常に多く、根痛みしたために肥料が効かずに輪斑病が発病しているほ場が散見されます。さらに、5月下旬からの日照不足の影響で、苗の生育は全体的に遅れています。これから急いで苗の充実を図る必要がありますが、回復が遅れて苗が充実していない場合は、作型を遅くするなど苗の充実具合に応じた作型の選択が必要です。

また、今年も炭そ病が感染・拡大しやすい状況が続きました。これから炭そ病の汚斑症状が発症しやすくなりますので、発病株の早期発見・早期排除に努めて下さい。

7月上旬より発生が見られたカキノヒメヨコバイについても、引き続き散見されますので注意して下さい。

作型及び苗の管理

作型の選択

- クラウン径が8mm未満の苗は、無理して早い作型にせず、苗の充実を優先させる。
- 炭そ病やうどんこ病の発生が見られる苗は遅い作型に使用する。
- 作型は、厳寒期の出荷増と春期の収穫ピーク軽減のため、低温処理作型と普通ポットを組合せ、2～4作型を導入する。
- 労力分散のため、作型は栽培面積が大きいほど多く組み合わせる。

表1 「あまおう」の作型別、処理期間と定植日及び収穫開始の目安

作型 (予冷庫利用)	入庫	出庫	定植日	陽光処理	収穫開始
株冷Ⅲ型	8月18日	9月10日	9月10～14日	3回	11月上旬
株冷Ⅳ型	8月23日	9月15日	9月15～18日	2回	11月中旬
株冷Ⅴ型	9月1日	9月19日	9月19日～	1回	11月下旬
夜冷Ⅲ型	8月18日	9月10日	9月10～14日	—	11月上～中旬
夜冷Ⅳ型	8月23日	9月15日	9月15～18日		11月中旬
夜冷Ⅴ型	9月1日	9月19日	9月19日～		11月下旬
普通ポット 普通晩期(厳寒期安定出荷を目的)			9月20～25日 9月26～28日	—	12月上～中旬 12月下旬

肥培管理

クラウン径が8mm以上に充実した苗を育苗目標とする。

- 根傷みしている場合は追肥を控え、根が回復するまで葉面散布を行う。
- 各作型に応じて最終追肥時期（表2）を決め、計画的な施肥を行う。

表2 最終追肥時期の目安

作 型	3.5寸鉢	3 寸鉢
夜冷（8月中下旬処理開始）	処理 10日前	処理 5日前
株冷Ⅲ型（8月18日入庫）	8月 1日	8月 7日
株冷Ⅳ型（8月23日入庫）	8月 5日	8月10日
株冷Ⅴ型（9月 1日入庫）	8月10日	8月15日
普通ポット	8月25日	8月30日

かん水

- 「あまおう」は根傷みしやすいため、鉢土の乾き具合を常に観察して、過湿にならないようにかん水量を調整する。
- かん水は午前中を中心に行い、夕方には鉢土の表面が乾く程度にする（炭そ病対策）。
- 寒冷紗を被覆すると鉢土が乾きにくくなるため、乾き具合を見てかん水を控える。

葉かぎ

- 1回当たりの摘葉数は2枚以内とする。
- 苗の葉数が3～3.5枚になるようにする。
- 生育が悪い時や降雨時・直前は摘葉しない。
- 葉かぎ後は必ず「炭そ病」の防除を行う。
- 最終摘葉の後は、「ハダニ」「ヨトウ類」「炭そ病」の防除を必ず行う。

表3 作型別最終摘葉時期

株 冷	入庫 10 日前
夜 冷	入庫前
普通ポット	8月 30 日頃

花芽分化促進

【株冷処理】

- 株冷処理の間に苗が消耗するため、充実した苗を使用する。
- 株冷入庫時に葉柄中の窒素濃度が25～50ppmになるよう、肥培管理を行う。

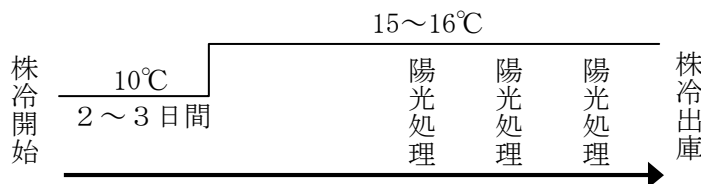


図1 株冷入庫期間の温度管理

〈 陽光処理 〉

※ 入庫後半には、花芽分化の安定と苗の消耗防止に、数回苗を太陽の光に当てる。

【株冷入庫10日前の体内窒素濃度による管理】

【夜冷処理】

体内窒素濃度	対策
25ppm 以下	葉面散布 2回：OKF-1 1000倍、メリット青 500倍など
25～100ppm	葉面散布 1回：OKF-1 1000倍、メリット青 500倍など
100～250ppm	かん水のみ
250～500ppm	PK剤の葉面散布 1～2回 2～3日前に100ppm以下になっているか再調査する
500ppm 以上	遅い作型に変更する

- 処理期間中に肥料切れしないよう、処理開始時には適当な濃度（試験紙判定で150ppm程度）の体内窒素を確保する。
- 入庫時の庫内温度は13℃±2℃とする。
- 入出庫時間の目安は、午後6時に入庫～午前10時に出庫とする。
- 気温が高い場合、入庫が早いと庫内の温度が下がりにくいため、入庫時間を遅くする。

【普通ポット】

- 8月下旬より寒冷紗被覆を行うと、花芽分化の促進と揃いが期待できる。

定植床の準備

定植床準備は、8月中旬までに終了しておく。

土壤消毒

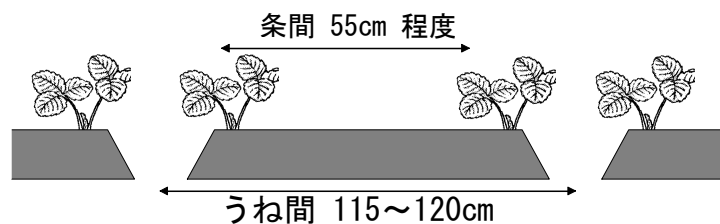
- 前年度に、「炭そ病」、「ネグサレセンチュウ」などの病害虫が発生していた場合は、薬剤による土壤消毒を行う。

基肥施用

- 2番果房の花芽分化安定対策のため、定植の早い作型ほど基肥量は少なくする。
- 作型別の基肥施用量は、部会の施肥基準に従う。

うね作り

- うね作りは、下図のように条間55cm、うね幅115～120cmを目安に行う。
- うね作り後は、定植までビニルのベタがけを行う。



病害虫防除等

炭そ病

- 育苗期間中は定期的な防除を行う（防除例参照）。特に、摘葉前後の防除を徹底する。
- 発生株、葉に病斑を確認した株はすぐに除去する。その周辺株も除去する。
- 株冷の陽光処理や夜冷の日光処理中に夕立などの降雨があった場合は、葉の水滴がなくなるまで入庫しない。株冷の場合、翌日の早朝に入庫する。

ハダニ類

- 発生が多い場合は、葉の展開が遅れ、苗の生育が悪くなる。
- 低温処理開始までに必ず防除を行い、ハダニの発生の無い状態で入庫する。
- 葉かぎ後に、薬液が葉裏に十分付着するように散布を行う。

ヨトウムシ類

- 芯葉を食害するため、芯葉に薬液がかかるように散布する。
- 入庫中にも食害を受けるため、入庫前に必ず防除を行う。

農薬名	倍率	回数	使用時期
フェニックス顆粒水和剤	2,000～ 4,000倍※	2回以内	前日
プレオフロアブル	1,000倍	4回以内	前日
トルネードフロアブル	2,000倍	2回以内	前日
プレバソンフロアブル5	2,000倍	2回以内	前日

※オオタバコガは2,000倍

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！